天地人

練馬区立上石神井中学校
第二学年 学年便り【第７号】
令和８年６月５日 発行

～ 天の時 地の利 人の和 ～

成長を感じた運動会

良すぎるくらいの天気の中、中学校生活最後となる運動会が開催されました。修学旅行から帰ってきてすぐ、運動会練習が始まりました。２週間という短い準備期間の中で、本当に準備が追いつくのかと直前まで不安でした。入場行進やラジオ体操、個人競技はこれまでの“経験”に助けられたこともあり、短い練習時間でも安心して見ていることができました。一番心配だったのは、運動会の目玉とも言える“大ムカデ”です。練習時間が短いうえになかなか足がそろわず、「本番までにレースになるのかな…」という不安が最後までありました。しかし、予行練習が終わってからみんな“本番”を意識し始めたのか、少しずつ競技に対する意識が変わったように感じました。体育科の荻野先生にアドバイスをもらいにいったり、クラスの中で「練習しよ！」という声が増えたり、「足がそろえばいい」から「レースで勝ちたい」になり、そこからめきめきと各クラスの大ムカデが仕上がっていきました。本番前日まで試行錯誤を繰り返し、迎えた本番。当日の子どもたちの姿で、それまでの頑張りはおわかりいただけたと思います。少しだけ、印象に残ったできごとを紹介します。



得意の応援で

一年生の時から、運動会では「元気のいい応援」をほめてもらっていました。今回も、その得意技は健在。ただ、今回はこれまでには見られなかった姿もありました。今年は、これまで以上に他学年の競技の時にも大きな声で応援していました。「先輩として」の成長を感じました。また、自分のクラスの仲間が競技しているときの応援はより白熱し、仲間が１着でゴールした時には自分事のように喜んでいました。



一つになった大ムカデ

冒頭にも書きましたが、最も心配だった大ムカデ。それぞれのクラスにドラマがありました。昨年の大縄に続き、大ムカデも練習を重ねてみんなの息を合わせなければ、うまくいかない競技です。修学旅行から帰ってきてから、運動会練習の多くの時間を割いてきたこの競技。どのクラスも、最も力を入れて取り組んでいたように思います。当日は、嬉し泣きした人もいれば、悔し泣きしていた人もいました。一生懸命取り組んできたからこその感情です。本当によく頑張っていました。最後のＡ組男子のムカデがグラウンドを走っているときは、クラスを超えて、会場中の人たちまでがＡ組男子のかけ声を叫んで応援していました。スポーツって、運動会って、中学生って、素晴らしいなと感じた瞬間でした。

ムカデがつまずいた時、全級リレーで順位が変わった時、誰かを責めたりするような雰囲気はありませんでした。むしろ、１位から４位になってしまったＢ組では、応援席に戻るなり「OKOK！」「次頑張ろ！」と前向きな声が聞こえました。

４月５月、修学旅行と運動会で積み重ねたたくさんの経験と力が必要になるのは、これからの学校生活



です。目の前に大きな行事はありませんが、だからこそ一日一日を丁寧に過ごす気持ちを大切に、残りの学校生活もこの学年らしく楽しく、充実して過ごしたいと思います。



【 堂々入場行進 】



【 ビシッとラジオ体操 】



【 緊張のスタート 】



【 白熱の大ムカデ 】



【 午前･午後､２回組んでいました 】



【 大興奮のリレー 】



※ ご確認ください ※ 定期考査に関する連絡です。

【欠席時の対応】
・感染症等の出席停止の場合でも、後日受験のテストの結果は参考程度とする
・学級閉鎖の場合のみ、問題用紙を回収して別日に一斉受験
・再受験は１週間以内の最初の登校日に実施